

発行  
北海道ポーランド文化協会

〒060-0018  
札幌市中央区北 18 条  
西 15 丁目 3-19 安藤方  
電話・FAX 011-556-8834  
hokkaidopolandca@gmail.com

POLE

第 96 号 2019.1.31  
北海道ポーランド文化協会 会誌

北海道ポーランド文化協会

東京事務所  
〒107-0052  
東京都港区赤坂  
9-6-29-309  
音響計画(株) 霜田気付  
電話 03-6804-1058  
FAX 03-6804-6058

## 第 32 回定例総会と懇親会(2018.11.11 豊平館)報告

2018 年 11 月 11 日(日)ポーランド独立回復百周年記念日に第 32 回定例総会と懇親会が開かれました。初めての試みとして、札幌市の国指定文化財である中島公園の豊平館を会場としました。この建物は明治 12 年に開拓使によって建てられた本格的洋式ホテル・迎賓会として市民に親しまれてきました。現在は文化財として保護される一方、市民にも広く開放されており、北海道とポーランドの国際的文化交流の場にふさわしい会場といえます。

**定例総会**は 16 時から 1 階「下の広間」で開催され、会員 25 人が参加しました。2018 年度(2017.9-2018.8)の多彩な活動の報告・総括のあと、同年度の収支決算報告、2019 年度の役員・活動計画・予算(案)などが審議・決定されました。最後に安藤会長から、長年役員等として会の運営に貢献された斎田道子さん、富山信夫さん、灰谷洋子さんを名誉会員に推挙したいとの提案があり、満場一致で承認されました(詳細は POLE96-1p.1-3 を参照)。

17 時 30 分から 2 階の「広間」に会場を移し、ジェプカ・ラファウさん、熊谷敬子さんの司会でポットラック(一品持ち寄り)方式の**懇親会**が始まりました。参加者は日本人 40 人、ポーランド人とその家族 21 人の合計 61 人に上りました。

安藤厚会長のはじめの挨拶のあと、ポーランド広報文化センター所長のメッセージが安藤さん代読、ジェプカさん翻訳で披露され、井上紘一さんの乾杯で祝宴に入りました。

### ポットラック(一品持ち寄り)方式

初めての試みとしてこの方式が提案されたとき、調理に手間がかかるので参加者が少なくなるのではないか、食べ物に偏るのではないかなど、いろいろ心配されましたが、フタをあけてみると参加者は例年より格段に多く、食事・飲み物のバランスも申し分ないという結果になりました。ボランティアで基本となるオードブルを何人分かまとめて調理・運搬してくださった方もありました。事前にお知らせい

ただいたリストをみると、クッキー、おかき、フライドポテト、チキン、サーモンサラダ、パンケーキ、お寿司など多彩で、またワイン、お酒、ソフトドリンクなどがたくさん提供されました。

### パフォーマンス

懇親会では「会場のピアノを利用して、歌、演奏、合唱、ダンスなど、いくつかの楽しいパフォーマンスを計画しています。飛び入りも歓迎します」と呼びかけたところ、プロ級のミュージカルパフォーマンスから飛び入りの演奏まで、ピアノを中心に多彩で楽しい出し物が提供されました。

☆サクソフォン・ピアノ・朗読(松山敏・鷺見健・小林 暁子) ショパンの歌曲「願い」「ぼくの愛しい人」

☆ピアノ演奏(富士文浩)「惜春鳥」(J・A・シーザー作曲、富士文浩編曲、寺山修司作詞)

☆スライドショー(榎本善太「POLAND 2016」、井上 紘一「国際プロニスワフ・ピウスツキシソポジウム」)

☆フォークダンス(札幌フォークダンスクラブ:小川真生・富樫悦子・富田幸子・松橋真弓)

☆みんなで歌おう(マズル・ミハウほか全参加者・伴奏 安藤むつみ)「雪と虹のバラード」「翼をください」「ポーランド国歌」

フォークダンスは、これまで何回か話題に上り期待もされていましたが、なかなか実行できませんでした。今回「札幌フォークダンスクラブ」の全面的な





ご協力によりようやく実現しました=写真上=。ポーランドの方々、特にお子さんたちは大喜びで、次回からはもう少し時間をとってより多くの方々に参加していただきたいと感じました。

「みんなで歌おう」=写真右下=でも多くの参加者が楽しそうに歌っておられました。ポーランドのみさんの先導による恒例の、元気で勇ましいポーランド国歌も参加者の喝采をあげました。

スライドショーは、いずれも貴重なもので、画像のクオリティーが抜群でした。時間の関係で、音楽パフォーマンスの合間に会場の一角で希望者を集めて行うという昨年の創立 30 周年記念祝賀会と同じ形式となり、しかも時間が足りなくなって、おしまいの方を切り上げていただくこととなり、まことに申し訳なく思っています。改めてゆっくり鑑賞できる機会を作りたいと思います(協会 HP をご参照ください)。

豊平館での開催もポットラック方式のパーティー

もポ文協としては初めてのことでしたが、さいわい楽しく順調に終わることができました。成功の要因は、豊平館のもつ豪華で重厚な雰囲気、パフォーマンスを買って出てくださいました参加者の積極的な姿勢、お金をかけずに食事や飲み物を楽しめるポットラック方式の仕掛けなどいろいろ挙げられます。懇親会の終了後、撤収作業のために残された時間はきっかり 30 分だけでどうなるかと心配されましたが、全員の協力でたちまち元のきれいな状態にもどしてしまい、文化財・豊平館の保護には協力できたかと安堵しています。

今回の催しを通して、自分たちのするべきことを自分の判断で即座に実行するポ文協会員のクオリティーの高さを感じました。プログラムにお名前が載っているみなさまだけでなく、参加者すべてのご協力に心からお礼申し上げます。

(実行責任者・事務局長・副会長 小笠原正明、  
写真 松山莞太、尾形秀芳)



## 独立回復 100 周年記念日(2018.11.11)行事

### 帆船ダル・ムウォージェジ号大阪港寄港

2018 年 5 月 20 日グディニヤを發ち 2019 年 3 月まで独立回復 100 周年記念世界一周航海中のポーランド帆船ダル・ムウォージェジ Dar Młodzieży 号が 11 月 11 日(日)大阪港に寄港(天保山岸壁、14 日～中央突堤北岸壁)、吉村洋文大阪市長らが出席して盛大な歓迎式典が催され、連日一般公開を行い、16 日(金)サンフランシスコへ出港しました。

同号は(戒厳令布告直前の)1981 年 11 月にグダニスク造船所で進水。'83 大阪世界帆船まつりと Sail Osaka '97 に参加、97 年には香港～沖縄、鹿児島～大阪の帆走レースで総合優勝を遂げました。当時を記憶しているファンも多いようです。



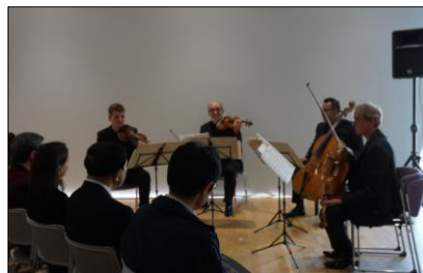
今回は、全国公募で選ばれた青年 400

名と同号が所属する海事大学などの学生・生徒 600 名が 6 交代で乗組み、ダカール、ケープタウン、ジャカルタ、シンガポール、香港、大阪、ロスアンジェルス、パナマ(カトリック教会のワールドユースデーに参加)など計 18 カ国 22 港に寄港します。

### シレジア弦楽四重奏団コンサート

独立回復 100 周年の節目の日に、ワルシャワのポーランド音楽出版会は国内 11 都市・国外 11 都市(欧州、ニューヨーク、シカゴ、メルボルンのほか、アジアでは唯一、東京)で記念コンサートを催しました。

東京会場となったすみだ北斎美術館は、今後クラクフの日本美術技術博物館マンガとの協力関係を構築していく可能性があるそうです。



《2018 総会・懇親会》F.ショパンの 17 の歌曲 Op.74 (初版 1859) より  
 ピアノ 鷺見健, 朗読 小林暁子, サクソフォン 松山敏  
 逐語訳・語注 栗原成郎



## 願い *Życzenie* (作曲 1830)

詞 ステファン・ヴィトヴィツキ *Stefan Witwicki* (1801-47)

もしわたしが空の太陽であるなら  
 あなたのためにだけしか輝かない  
 川の上にも、森の上にも輝かない。  
 しかしあらゆる時を超えて輝く  
 あなたの窓辺で、そしてあなたの為にだけ  
 もしもわが身を太陽に変えることができたなら。

Gdybym ja była słoneczkiem na niebie,  
 Nie świeciłabym jak tylko dla ciebie.  
 Ani na wody, ani na lasy:  
 Ale przez wszystkie czasy,  
 Pod twém okienkiem, i tylko dla ciebie,  
 Gdybym w słoneczko mogła zmienić siebie.

もしもわたしが[あの]美しい森の小鳥であるならば  
 わたしが歌いたいのはあなたのお国においてだけ  
 川の上でも、森の上でもない。  
 しかしあらゆる時を超えて歌いたい  
 あなたの窓辺で、そしてあなたの為にだけ…  
 どうしてわたしはわが身を小鳥に変えることができ  
 ないのかしら？

Gdybym ja była ptaszkiem w pięknym [z  
 tego] gaju,  
 Tylkobym w twoim chciała śpiewać kraju.  
 Ani na wody, ani na lasy:  
 Ale przez wszystkie czasy,  
 Pod twém okienkiem, i tylko dla ciebie...  
 Czemuż nie mogę w ptaszka zmienić siebie?

[https://pl.wikisource.org/wiki/%C5%BByczenie\\_\(Witwicki\)](https://pl.wikisource.org/wiki/%C5%BByczenie_(Witwicki))

## ぼくの愛しい人 *Moja pieszczotka* (作曲 1837?)

詞 アダム・ミツキェヴィチ *Adam Mickiewicz* (1798-1855)

ぼくの愛しい人は、ご機嫌のよい時は  
 小鳥がさえずるように おしゃべりし 甘くささやき  
 はじめる  
 あまりにも優しく甘くささやき おしゃべりするので  
 一言も聞きのがしたくなくて  
 話をささぎる気持ちになれず 答える気にもなれない  
 ただ耳を傾けて聴いて、聴いて、聴いていたい！

Moja pieszczotka, gdy w wesolej chwili  
 Pocznie szczebiotać i kwilić i gruchać,  
 Tak mile grucha, szczebioce i kwili,  
 Że nie chcąc słówka żadnego postradać,  
 Nie śmiem przerywać, nie śmiem  
 odpowiadać,  
 I tylko chciałbym słuchać, słuchać, słuchać!

だが(彼女の)瞳が燃え輝いたとき 生命(いのち)に  
 あふれた言葉が  
 頬をいっそう赤く染めはじめ  
 真珠の歯が 首飾りに並ぶように 白く光る…  
 ああ！ その時には思い切って瞳の中を覗き込み  
 唇めがけて突進する もう(言葉など)聴く必要はない  
 ただキス、キス、キスしたいだけ！

Lecz mowy żywość gdy oczki zapali  
 I pocznie mocniej jagody różować,  
 Perłowe ząbki błysną wśród koralu...  
 Ach! wtenczas śmielej w oczęta spoglądam,  
 Usta pomykam i słuchać nie żądam,  
 Tylko całować, całować, całować!

Odessa, 1825.

[https://pl.wikisource.org/wiki/Do\\_D...\\_D...](https://pl.wikisource.org/wiki/Do_D..._D...)

〈語注〉[Witwicki] *słoneczko* は *słońce* 「太陽」の愛称形で「お陽様」、*nie* は否定辞、*ani...ani* は *neither...nor*、「美しい森の」のヴァリエントは「あの森の」「あの」は「この世ならぬ」を含意。(日本でも近藤朔風訳詞「乙女のねがい」が愛唱された)[Mickiewicz] *szczebiotać* (小鳥が)さえずる、*kwilić* (小鳥が)ピイピイ鳴く、*gruchać* (鳩が)クックツと鳴く:小鳥の囀り、歌を女性のおしゃべりに転じた表現、*mowy* (言葉の)は *mowa* (言葉)の所有関係を表す単数生格で変則的に *żywość* の前に置かれたもの、*usta* (口、唇)は複数対格 (*acc. pl.*) で方向をあらわす対格 (やや無理な表現) と思われる。祖国ポーランドは *POLSKA* で文法上は女性形ですので、詩には隠された意味があるかも知れません。

## 第4回B・ピウスツキ国際会議に参加して

井上 絃一

ブロニスワフ・ピウスツキの百年忌とポーランドの独立回復百周年を祝して、第4回B・ピウスツキ国際会議(以下4IBPCと略記)がポーランドの古都クラクフの日本美術技術博物館 Manggha と、シレジアの工業都市ジョリの市立博物館で開催されました(2018.10.18-20)。

10月17日午後6時、Manggha館の特別企画展「アイヌ、グラレー[トラ山地民]そしてブロニスワフ・ピウスツキ」の開会式が博物館ホールで挙行され、ワルシャワから駆けつけた川田司日本大使が祝辞を、B・ピウスツキの孫木村和保さんが謝辞を述べました。その後のレセプション会場は久闊を叙する旧知や初対面を喜ぶ人々で賑わいました。

18～19日のシンポジウムは「歴史と文化」「博物館とコレクション」「言語と文学」「ブロニスワフ・ピウスツキ」の4セッションに分かれて延べ18件(日本から6件[2件のビデオ上映も含む]、ポーランド5件、ロシア4件、スイス2件、イタリア1件)の報告と質疑応答が繰り広げられました(POLE96-1p.4プログラム参照)。

18日昼下り、私たちは市電を乗り継いでトポロヴァ通り18番地へ赴き、ピウスツキ兄弟旧居の壁面に設置されたブロニスワフ顕彰板の除幕式に参列しました。そこには弟ユゼフを顕彰する金属板が既に掲げられていますが、今回ポーランド初の兄の顕彰板が戸口の左肩に追加されたわけです。

午後7時、アマレヤシアターの舞踏劇「ノマディック・ウーマン Nomadka」が Manggha 館地下講堂で再演されました。ドラマの原素材は、グリーンランド生まれの「ノマド」の少女(ルイズ・フォンテイン)が、デンマーク本国の里親に引き取られた異郷で差別と暴力の充満する流浪の旅の末、ノルウェー北部の大自然とサーミ文化の中で彼女本来の生と尊厳を取り戻すという、苛烈な「ノマドの女」の物語です。ルイズからその生き様を聴取したポーランドの舞踏

家カタジナ・パストゥシヤクは壮絶な舞踏劇を創出しました。初演は2012年12月11日ポーランドのグダンスク。2014年4月13日に同地で再演、7月5日には東京・両国の第11回シアターX(カイ)国際舞台芸術祭でも招致上演されました。アマレヤシアターは2017年11月30日～12月1日、札幌で開催の国際先住民族芸術祭に招聘され、南区小金湯の札幌市アイヌ文化交流センター(サッポロピリカコタン)で公演、好評を博しました。構成・演出担当のカタジナはルイズとともにダンサーとしても熱演、アイヌの女性(松平亜美、恵原詩乃)も共演しています。クラクフ公演はその再演というわけです。

19日の第4セッションに登壇したダヌータ・オニシュキェヴィチさん(ユゼフ・ピウスツキの曾孫)は、大伯父ブロニスワフが敢行した「ほとんど世界一周の旅」の足跡を忠実にたどる「一人旅計画」を披露しました。文化人類学専攻のダヌータさんは旅の仔細をビデオに収め「電子時代のエスノグラフィー」(彼女はweb documentaryと称します)を仕上げるとの大志も開陳しました。2020年当初にはダヌータさんが日本に上陸し皆さんの誰かを取材するかもしれません。その節はどうかよろしくお願いします。

今回は組織委員会の呼びかけに応え、2篇のビデオ作品が日本から寄せられ会議の殿を務めました。その一は長屋のり子さんが自作長編叙事詩「盲いたチュフサンマの絶唱～その悲歌、哀歌そして挽歌～」を朗読した映像です。会場には日本語原文、安藤厚さんの英訳、ジョリ市立博物館によるポーランド語訳が配布され、全篇が上映されました。その二は北海道テレビ制作番組「嘘塗りの骨～アイヌ人骨返還問題の悲痛～」に丸山博室蘭工大名誉教授が英語字幕を加えた記録映像です。いずれの作品も深い感銘を醸し、会議の趣旨にふさわしいフィナーレとなりました。



①Manggha 館特別展, 木村和保と松本照男 ②ピウスツキ兄弟旧居前で顕彰板除幕式 ③和保とダヌータ >伯父と姪<



④アイ・コタンのタテコセ ⑤ブロニスワフ記念碑と筆者 ⑥ユゼフ・ピウスツキ博物館旧館前で、右端がスーペウ館長

私たちは除幕式から帰館後、特別展の見初めを行いました。展示を担当した学芸員アンナ・クルールさんは、平取町立二風谷アイヌ文化博物館からアイヌ資料、ザコパネのタトラ博物館からはピウスツキ収集のグラレー資料を借り受けて、見事な三題嚙の構築に成功しています。

私が特に注目したのは、アンナさんがクラクフの文書館で新たに発見したピウスツキ写真コレクションで、展示された1葉の写真の前で足が釘付けとなりました。サハリンの研究者や私がバフンケと紹介してきた人物の写真に「アイ村、37 才、タテコス wieś Aj 37 l. Tatekos」と注記してあったからです。タテコセトテコセはブロニスワフの岳父シレクア、その弟バフンケの末弟ですから、われわれの誤謬はもはや明白です。この画像はネット上でも広く流布していますので、まずはこの場をお借りして謝罪と訂正をさせていただきます。

Manggha 館は特別展へ向けてポーランド語・英語併記の図録を公刊しました(アンナ・クルール編『アイヌ、グラレーそしてブロニスワフ・ピウスツキ』240 頁、2018)。同展は2019年1月20日に閉幕します。

10月20日午前8時半、私たちは貸し切りバスで第2会場のジョリ市へ出立、2時間余りで市立博物館に到着しました。古くは交通の要衝として、また炭鉱都市としても栄えたジョリが、今は政財界一丸となって新しい発展戦略を模索中で、同戦略の一環となる観光立地の中核を担うべく市立博物館が設置されたようです。

私たちはまず、2018年5月22日に除幕されたばかりのポーランド初のピウスツキ記念碑に詣でました。1903年の北海道アイヌ調査の盟友ヴァツワフ・シェロシェフスキの銅像が絶妙な距離で対面して建てられています。同館は世界各地の研究に貢献したポーランド人の顕彰プロジェクトを推進しており、顕彰碑建立は今後も予定されているそうです。

4IBPCの第5セッションでは市立博物館の趣旨・実績そして抱負についてブハリク館長以下2名の館員が熱弁をふるいました。館長は2度にわたって来道し、アイヌの実態調査やアイヌ資料収集を

試みたほか、欧州の骨董屋からの関係資料購入にも尽力されました。同館は今やポーランドで最大、120点強のアイヌ資料を収蔵しています。折しも特別展「ブロニスワフ・ピウスツキから萱野茂の時代にかけてのアイヌの世界」(2018.5.19-11.11)が開催中で、私たちは館長の案内で同展を熟覧しました。市立博物館は特別展と同名の図録(ルツィアン・ブハリク編、363 頁、ポーランド・日本・英語版、長屋さんの詩作も収録、2018)も上梓しています。

4IBPCの参加者は20日夕刻、貸し切りバスでクラクフへ戻りました。

その後、木村和保さんと私は松本照男さん(ワルシャワ在住ジャーナリスト)の案内でザコパネのタトラ博物館を訪ねました。同館はブロニスワフの生誕150周年を期して特別展「ブロニスワフ・ピウスツキ～元帥の非凡な兄」(2016.6.15-11.13)を挙げています。10月23日の夕べ、アンナ・ヴェンデ=スルミヤク館長は和保さんの講演会を企画、参集した聴衆はブロニスワフの孫の話に興味津々で、多彩な質疑応答が交わされました。その際、択捉島の土着アイヌの末裔・三和昭子さんが意表を突いて名乗り出られ、興味深い出会いができました。ポーランド在住歴30年で、近郊のノヴィ・タルクでペンションを営む三和さんは、講演会の知らせを聞くや愛車を駆って馳せ参じられたのです。

私たちは10月25日、ワルシャワ郊外スレユーヴェクのユゼフ・ピウスツキ博物館を訪問しました。既に着工された新館建設の進捗状況の確認が目的でした。ロベルト・スーペウ館長によると、新館は地下3階・地上2階建て、地下部と1階の工事は終了しているが、2階と地表部の整備にあと1年を要し、来秋に竣工予定とのことでした。本来なら4IBPCは今秋完成する新館で開催されるはずでした(2013年10月に来道された際のクシニョフ・ヤラチェフスキ前館長談)。その後に館長の交代があり、開館も1年先延べとなりましたが、前館長の口約はいずれ果たされるでしょう。

(いのうえ・こういち 2018.12.26 札幌)  
(photo⑤by Philippe Dallais, 他の写真は松本照男)



《新会員のひと言》

## 新入会のご挨拶

大賀 美紀子

夫退職後の旅は、ヨーロッパの端を訪ねることから始まりました。スペイン・ポルトガル、スコットランド、はたまたトルコ…。端で起きたことは何だったのだろう。そしていつも心の中で気になる存在はポーランド。難しい文字や発音の国…縁あって当協会栗原成郎ご夫妻とワルシャワ在住ジャーナリスト松本照男ご夫妻のアレンジでポーランドを訪ねる旅に参加することが出来ました。安藤むつみさんとも一緒でした。2008年1回目はワルシャワから南東部ルブリン、ザモシチ、チェンストホヴァそしてクラクフ、アウシュビッツ、2回目2012年はワルシャワから始まって北西部のトルン、グニェズノ、ポズナン、ヴロツワフ、シドニツアなど。その歴史に緊張を覚えつつも、食べ物飲み物のおいしさにも感動。ハンザ同盟の街トルンの川向うに浮かび上がる姿はその後何度も夢に登場するほど。同じハンザ都市リュベックやハンブルクを訪ねる旅につながりました。シヨパンの背景にも心打たれます。

そんな私、長くフリーで講演会やコンサート、映画等に参加して来ましたが、4月から会員にさせていただき、11月の総会と楽しい持ち寄りパーティにも出席して、札幌にはこんなにもポーランドの方々沢山活躍されている、そして多彩な方々が会員でいらっしやると知り驚きました。会の終盤疲れて思わず椅子に座り一緒に歌っているうちにやがて国歌斉唱。歌詞を目で追うのが精いっぱい気が付いた時には皆さん立っていらした。なんと恥ずかしい、申し訳なさで一杯でした。と同時に、「ナポレオンのひそみに倣って」とある歌詞に、東欧の各地



ケイタイに電話が入った。小樽の友人、長屋の子さんからの急用であった。「あのね、斉藤征義さんが亡くなったの、それでねチヨマロさんがポーランド協会の“午後のポエジア”に誘って下さり親しかったんだから、どうかPOLEへ追悼文を書いて下さらない。」

葬儀の始まる15分前に、会場へ入った。奥さんは私の顔を見てニコニコして言った。「あれだけ元気だった人が、今日は何も喋らないのヨ…」何かホ

が様々な国との確執に置かれてきた歴史を思い出し、学びの機会をいただいたことを心より感謝しております。どうぞよろしくお願ひします。

(おおが・みきこ)

## ポーランドという遠い国

嵩 文彦



子供のときから、偉人がたくさん出ている国であることは知っておりました。コペルニクス、シヨパン、キュリー夫人。キュリー夫人はしっかりと映画で見た覚えがあります。夫が馬車にはねられて亡くなる場面がありました。それからエスペラントのザメンホフ。文学に関わるようになってから、この国の苛酷な歴史と、それにもめげず文化をととても大切にす人びとの築いた国であることを知りました。

知人に誘われて、去年と今年続けて二回、「午後のポエジア」に参加しました。楽しくて意義あるイベントでした。その後、協会主催の「プロニスワフ・ピウスツキ没後百年記念講演と朗読の集い〜ポーランド、サハリン、北海道〜」で感銘を受け、さらに二次会にも参加させていただきました。みなさんが文化を身近なものとして、分け隔てない人とのつながりとともに大切にされているのを感じ取り、すぐさま仲間に入れていただくことにいたしました。

昨年の春、文学のことで敦賀を訪れたとき、一月蜂起(1863-64)でシベリア流刑に処せられたポーランド人の孤児たちの本国送還の受け入れ港だったのを知りました。

ポーランドは大国ロシアに虐げられ続けました。反抗精神は人間にとって大切です。私は一度もポーランドを訪れることなく生涯を終えるでしょうが、ずっと憧れの国、懐かしい国であることでしょう。

(だけ・ふみひこ)

## 風花や君のゑまひと仰ぐ天

霜田 千代麿

一ツとした様子だった。弔辞で沢山の功績が語られた。イオネスコ作『瀕死の王様』の一行のセリフと同じ様に聴こえた。「全ては、過去となる」合掌

《例会》2016年6月4日〈朗読〉草野心平『第百階級』より。2017年5月27日、詩劇『ピウスツキ〜ポーランド・サハリン 愛と死』演出。2018年5月26日『もう一人の宮沢賢治』——この時の彼の朗読は〈すさまじく〉〈ソウゼツ〉の一語につきるものであった。

(しもだ・ちよまろ 2019.1.11、写真 五十嵐いおり)

## ポーリッシュポタリーショップ

松山 莞太

冬にしては珍しい、雨が滴る夜にミュンヘンクリスマス市を訪れた。その一角に、アグニェシュカ・ポヒワさんが運営する、ひとときわ風情のある落ち着いた雰囲気のパワーランド陶器のお店があった。

多くの人を立ち止まらせるその陶器たちは少々黄みがかっており、花や水玉といったカラフルな模様を浮かべている。形は大小様々あり、お茶碗からマグカップ、お皿まで多種多様である。ポヒワさん曰く、日本食から洋食まで幅広いジャンルの料理



に合うという。確かに、カラフルでありつつ落ち着いたお皿は、ゆったりと過ごしたい食事の時間にならどんな料理もマッチしそうで、お寿司やスクランブルエッグなどを乗せても合いそうだ。

この陶器の起源は中世にまで遡る。

ポーランド南部の町で取れた砂を粘土にし、様々な色のついた模様をスタンプにして表面に配置して焼き上げる。この伝統の陶器は昔から受け継がれており、何度か波を繰り返しながら今ポーランドでは再びブームになっているという。ポヒワさんの実家でも使われていたそうだ。

この陶器は丈夫で、オーブン・電子レンジ・食洗機・冷凍庫ともに大丈夫で、実用にも十分耐える作りとなっている。そしてお店では、模様や形の質が良いもののみを取り扱っているそうだ。これから寒くなる季節、このポーランド陶器で家庭の食卓に一縷の温かみを添えてみるのはいかがだろうか。

(まつやま・かんた 2018.12.4)



### ポーランド&ニッポン歳時記 28

#### 猫

我が家の近所に野良猫が何匹か棲んでいます。住民たちが餌をやって養っていますが、最近彼らに小屋まで建ててやりました。これでもう猫たちも厳しい寒さから身を守れることでしょう。

na wielkiej klapie                      ごみ箱の  
śmietnika w środku zimy           蓋に鎮座す  
kot jeszcze większy                  冬の猫  
Monika Tsuda, Poznań                ポズナン市、津田モニカ

krople na szybie                        窓たたく  
deszcz do taktu przygrywa           雨に合わせて  
skrzypiec głosowi                      バイオリン  
Piotr Wrzeciono, Warszawa        ワルシャワ市、ピョトル・ヴジェチョノ

岩見沢市、霜田千代磨

うらめしや子持ち 緋くち開けて  
若僧の歳末勤行いきいきと  
熊笹の風除ビュウビュウ鳴りどおし

### 平取町立二風谷アイヌ文化博物館で今秋

#### 第25回特別展「プロニスワフ・ピウスツキのみた平取」(仮称)を開催

近代のアイヌ文化研究をリードした人類学者のひとりであるプロニスワフ・ピウスツキ(1866-1918)は、1903年の北海道調査などで沙流アイヌと交流し、多くの学術資料を後世に残しました。

本展では、明治後半代を中心とした氏の調査概要や時代背景・地域住民との出会い・収集資料(音声、写真、民具等)の紹介を通して、一連の研究の今日的意義を考えます。また、B.ピウスツキを介して近年活発に行われるようになった二風谷アイヌ文化博物館とポーランド各地の博物館との交流の

成果を広く一般に紹介します。

開催日時は2019年10月1日(火)～12月1日(日)、場所は当館内の特別展会場です。

2019年は日本・ポーランド国交樹立100年の記念の年ですので、当展示でもできる限り、日本語とポーランド語を併記するよう計画しています。

北海道在住のポーランドの方々及び関係者にもぜひご覧いただきたいと思っておりますので、今後とも当館事業にお力添えをよろしくお願いいたします。

(平取町立二風谷アイヌ文化博物館学芸員 長田佳宏)

2019年2～3月のイベント

《第 87 回例会》ポーランド名画ビデオ鑑賞会、札幌エルプラザ 4F 大研修室 B,C、2019年2月20日(水)18:00開場、18:30～22:00『大理石の男』1977 アンジェイ・ワイダ監督+懇談会、入場無料

《第 88 回例会》スライドとトークショー:尾形芳秀「樺太時代の忘れ物」ポーランドへの誘い～ブロニスワフ・ピウスツキ没後 100 年記念報告会～アイヌの世界 ブロニスワフ・ピウスツキから萱野茂まで～、札幌エルプラザ 4F 大研修室、2019年3月3日(日)13:30～16:30、入場無料

《第 89 回例会》ブロニスワフ・ピウスツキ没後百年記念講演の集い(2)、井上紘一「ブロニスワフ・ピウスツキの生涯と仕事」、新井藤子「日本で取り組まれてきたブロニスワフ・ピウスツキ研究の系譜」、北海道大学学術交流会館 1F 第 4 会議室、2019年3月16日(土)13:30～16:30、入場無料

新役員が決まりました (2018.9～2019.8)

会長:安藤厚 (新任)  
 副会長:小笠原正明、霜田千代麿  
 運営委員:新井藤子、安藤むつみ、氏間多伊子、熊谷敬子、越野剛、小林暁子、小林浩子、坂田朋優、佐々木保子、霜田英麿、園部真幸、高橋健一郎、塚本智宏、中島洋、松井亜樹、松山敏、水田香、ラファウ・ジェブカ、アグニェシュカ・ポヒワ  
 事務局長:小笠原正明、会計:園部真幸  
 監査委員:稲川和幸、野村信史

入会・退会(ご芳名、敬称略、2018.10～12)

入会:村田雄穂、神雅子、鷲見健、滝口久仁子、土橋芳美、古内久大;退会:大久保律子、竹田眞司

ご寄付(維持会費)ありがとうございます(敬称略)

(2018.9～12、1 口千円)(10)土橋芳美 (3)齊田道子、富山信夫、灰谷洋子、松山敏 (2)安藤厚、安藤瞬、安藤むつみ、栗原朋友子、小林暁子、佐藤純一、山本伸一 (1)カジメシユ・コグト、亀岡延枝、高岡健次郎、松永吉史、三上和子

新年度(2018.9～2019.8)会費納入のお願い

年会費(一般3千円、学生 1,500 円)と、維持会費(任意のご寄付1口千円)の納入をお願いします。

【郵便振替口座】記号 02740 5 番号 19735

【加入者名】北海道ポーランド文化協会

※ご請求額については、個別の納入お願い文書と振替用紙をお送りします。

住所変更・メールアドレスのご連絡を!

転居された方・イベント予定などのメールが届いていない方は事務局(1ページ目左上参照)へご連絡ください。

『ポーレ』原稿募集

エッセイ(旅行記、新刊紹介、映画・演劇・演奏会の感想)、研究(歴史、文化、社会、経済)、俳句・詩その他なんでも歓迎。事務局へご連絡ください。

目次

第 32 回定例総会と懇親会(2018.11.11 豊平館)報告(小笠原正明)..... 1  
 独立回復 100 周年記念日(2018.11.11)行事—帆船ダル・ムウォージェジ号大阪港寄港・シレジア弦楽四重奏団コンサート..... 2  
 《2018 総会・懇親会》F.ショパンの 17 の歌曲 Op.74 より「願い」「ぼくの愛しい人」(逐語訳・語注 栗原成郎)..... 3  
 第 4 回 B・ピウスツキ国際会議に参加して(井上紘一)..... 4  
 《新会員のひと言》新入会のご挨拶(大賀美紀子)／ポーランドという遠い国(嵩文彦)..... 6  
 風花や君のゑまひと仰ぐ天(斉藤征義さん追悼:霜田千代麿)..... 6  
 ポーリッシュポタリーショップ(松山莞太)..... 7  
 ポーランド&ニッポン歳時記 28(津田モニカ、ピョトル・ヴジェチョノ、霜田千代麿)..... 7  
 平取町立二風谷アイヌ文化博物館特別展「ブロニスワフ・ピウスツキのみた平取」(長田佳宏)..... 7  
 第 32 回定例総会議案・第 4 回 B・ピウスツキ国際会議プログラム(井上紘一編訳)..... 別冊 1  
 ペンリウク バフンケ 二十六時のペウタンケ(土橋芳美)・盲いたチュフサンマの絶唱(長屋のり子)..... 別冊 2

POLE

第 96 号 ポーレ編集委員会

熊谷敬子／越野剛／塚本智宏／松山敏／ラファウ・ジェブカ



## 第 32 回定例総会議案

(議長 尾形芳秀)

第 1 号議案 2018 年度(2017.9-2018.8)活動報告について(小林暁子)

- 1.《第 31 回定例総会・創立 30 周年祝賀会》、ニューオオタニイン札幌、2017 年 10 月 21 日(土)11:00～14:00、参加者:総会約 20 人、祝賀会 日本人 30 人、ポーランド人&家族 29 人
- 2.《創立三十周年記念演奏会》、札幌コンサートホール *Kitara* 小ホール、2018 年 6 月 23 日(土)17:00～20:00、協賛:ポーランド広報文化センター、ポーランド独立回復 100 周年記念事業、道銀芸術文化助成事業、後援:駐日ポーランド大使館、入場者 300 人超
- 3.例会
  - (1)《第 82 回例会》コルチャック先生:講演と映画の集い、講演:コルチャック先生の思想と生涯～子どもをいかに愛するか:塚本智宏、映画『コルチャック先生』1990 アンジェイ・ワイダ監督、札幌エルプラザ 4F 大研修室、2018 年 3 月 24 日(土)13:30～16:50、参加者約 60 人  
(パネル展示)コルチャック先生の思想と生涯、札幌エルプラザ 2F 交流広場、3 月 16 日(金)～24 日(土)、共催:ポーランド広報文化センター
  - (2)《第 83 回例会》朗読とお茶の会:午後のポエジア 8、ドラマシアターども、2018 年 5 月 26 日(土)14:00～17:00 第 1 部:朗読/もう一人の宮沢賢治～風と光にのって/詩と音楽と映像で紡ぐ世界、第 2 部:交流の広場/朗読・音楽、ポーランドの詩と音楽～ズビグニェフ・ヘルベルト年 2018、共催:ポーランド広報文化センター、ポーランド独立回復 100 周年記念事業、参加者約 60 人
  - (3)《第 84 回例会》ポーランド名画ビデオ鑑賞会、札幌エルプラザ 4F 中研修室、2018 年 7 月 21 日(土)13:30～16:20『影』1956 イェジー・カヴァレロヴィチ監督、『パサジェルカ』1963 アンジェイ・ムンク監督、参加者約 30 人
  - (4)《第 85 回例会》ブロニスワフ・ピウスツキ没後百年記念講演と映画と朗読の集い～ポーランド、サハリン、北海道～、北大学術交流会館小講堂、2018 年 7 月 29 日(日)、第 1 部 13:30～講演(司会:越野剛)井上絃一:ブロニスワフ・ピウスツキの生涯と仕事、佐々木史郎:ピウスツキが収集したアイヌ文化、新井藤子:ピウスツキが日本に残したイメージ～明治から現在まで～、第 2 部 15:40～ドキュメンタリー映画『ピウスツキ・ブロニスワフ～流刑囚、民族学者、英雄 Piłsudski Bronisław - zesłaniec, etnograf, bohater』2016 ヴァルデマル・チェホフ
- スキ監督(日本語字幕付き)、第 3 部 16:45～18:30 朗読(司会:熊谷敬子)長屋のり子/自作詩/盲いたチュフサンマの絶唱、白井順/花崎皋平作/チュサンマとピウスツキとトミの物語より、酒谷茂靖/土橋芳美作/痛みのペンリウクより&ペンリウク バフンケ 26 時のペウタンケ、共催:北大スラブ・ユーラシア研究センター、ポーランド広報文化センター、ポーランド独立回復 100 周年記念事業、後援:駐日ポーランド大使館、参加者約 150 人
- (5)《第 86 回例会》マルタン・グレゴリウス北大オルガンを奏でる～ポーランドオルガン音楽の 500 年、北大クラーク会館講堂、2018 年 8 月 10 日(金)18:00～19:00 のち交流会、協賛:ポーランド広報文化センター、参加者 300 人超
- 4.会誌 POLE No.92 (2017.9.1)、No.93 (2018.1.25)、No.94 (4.10)発行
- 5.運営委員会:2018 年度(1)2017.10.2、(2)12.11、(3)2018.2.19、(4)4.17、(5)7.10
- 6.共催・後援・協力事業
  - (1)〈後援〉第 19 代札幌コンサートホール専属オルガニスト マルタン・グレゴリウス(ポーランド出身)デビューリサイタル、*Kitara* 大ホール、2017 年 10 月 7 日(土)14:00～15:30
  - (2)〈後援〉徳田貴子ピアノリサイタル、ザ・ルーテルホール、2017 年 11 月 20 日(月)19:00～
  - (3)〈後援〉札幌コンサートホール開館 20 周年記念・オルガンガラコンサート、出演:マルタン・グレゴリウスほか、*Kitara* 大ホール、2017 年 12 月 9 日(土)15:00～
  - (4)〈共催〉さっぽろ雪まつり第 45 回国際雪像コンクール参加の Team Snow Art Poland (代表:カトヴィツェ美術大学 ASP Katowice 講師で彫刻家のコツランガ氏)を支援、大通会場 11 丁目国際広場、2018 年 2 月 4 日(日)～8 日(木)、共催:駐日ポーランド大使館
  - (5)〈後援〉NPO 法人まざるか北海道・第 7 回東日本大震災被災者支援コンサート:私たちは忘れない! 光塩学園 koen 天秘ホール、2018 年 3 月 10 日(土)14:46～
  - (6)〈後援〉ポーランド映画祭 2018 in 札幌、札幌プラザ 2・5、2018 年 4 月 21 日(土)11:30～18:05『二つの冠』2017 ミハウ・コンドラト監督、『最後の家族』2016 ヤン・P・マトゥシンスキ監督、『早春』デジタル・リマスター版 1970 イェジー・スコリモフスキ監督、主催:ポーランド広報文化センター、入場者 300 人超
  - (7)〈協力〉ブロニスワフ・ピウスツキ百年忌追悼式、

2018年5月17日(木:命日)13:30～白老・旧アイヌ民族博物館内で、アイヌ式で祈りピウスツキ像前で舞踊を奉納

(8)〈後援〉北大祭 2018 ポーランド料理テント Polski Namiot、北大総合博物館前、2018年6月1日(金)～3日(日)、主催:北大ポーランド人留学生会、協賛:ポーランド広報文化センター、ポーランド独立回復100周年記念事業

(9)〈後援〉オルガンサマーナイトコンサート:マルタン・グレゴリウス、Kitara 大ホール、2018年6月9日(土)18:00～19:00

(10)〈後援〉Kitara のバースデイ:オルガン/マルタン・グレゴリウスほか、Kitara 大ホール、2018年7月1日(日)15:00～

7.(参考)会員動向(2018年度)入会6人、退会5人、会員数90人(2018.9.1現在)

**第2号議案** 2018年度収支決算報告および会計監査報告について(佐々木保子・野村信史)別紙参照

**第3号議案** 2019年度(2018.9-2019.8)役員等(案)について(安藤厚) **新任**

(会則第6条に基づく役員)

会長:安藤厚  
 副会長:小笠原正明、霜田千代麿  
 運営委員:新井藤子、安藤むつみ、氏間多伊子、熊谷敬子、越野剛、小林暁子、小林浩子、坂田朋優、佐々木保子、霜田英麿、園部真幸、高橋健一郎、塚本智宏、中島洋、松井亜樹、松山敏、水田香、ラファウ・ジェプカ、アグニェシュカ・ポヒワ

事務局長:小笠原正明  
 監査委員:稲川和幸、野村信史  
 (会則第15条に基づく事務局、会誌編集委員会)

事務局:(事務局長)小笠原正明、(会計)園部真幸、(広報)越野剛、(渉外)ラファウ・ジェプカ、(催物)氏間多伊子、(同)熊谷敬子

会誌編集委員会:熊谷敬子、越野剛、塚本智宏、松山敏、ラファウ・ジェプカ  
 (会則第16条に基づく東京事務所)  
 東京事務所:(所長)霜田英麿、(副所長)熊倉ハリーナ

**第4号議案** 2019年度活動計画について(小笠原正明)

1.《第32回定例総会&懇親会》、豊平館、2018年11月11日(日:ポーランド独立回復100周年記念日)16:00～総会1F下の広間、17:30～懇親会2F広間

2.例会  
 (1)ポーランド名画ビデオ鑑賞会、2019年1-2月  
 (2)講演会:ブロニスワフ・ピウスツキ没後百年記念講演会/井上紘一、その他、2019年春以降  
 (3)朗読会「午後のポエジア」9、2019年5月下旬  
 (4)ヤドヴィガ・ロドヴィッチ元駐日大使夫妻講演会、2019年7月1日

3.会誌 POLE No.95 (2018.9.15)、No.96 (2019.1)、No.97 (2019.5)

4.オンライン広報の強化(Facebook、Twitter)

5.その他の後援・協力依頼には随時対応

**第5号議案** 2019年度予算(案)について(園部真幸)別紙参照

**第6号議案** 名誉会員の推挙について(安藤厚)  
 長年、役員等として会の運営に貢献された、斎田道子さん、富山信夫さん、灰谷洋子さんを名誉会員に推挙します。(会則)「第12条 本会に名誉会員をおくことができる。名誉会員は運営委員会において推挙され、総会において承認される。名誉会員は会費を免除される。」

**【出席会員25名、全議案承認。2018/11/11】**

2019年度 会計予算書(自2018年9月1日～至2019年8月31日) (単:円)				参考
【収入の部】	前年度決算	予 算	備 考	2017決算
会 費	238,500	240,000	3千円×80人	238,000
寄付金	98,037	40,000	(2018年度は特例)2017年度実績程度	47,000
雑収入	2	140,010	貯金利子、立替金入金2018.10.1	2
小 計	336,539	420,010		285,002
前年度繰越金	376,077	153,552	2018.9実績	321,791
合 計	712,616	573,562		606,793
【支出の部】				
事業費	173,333	100,000	総会・懇親会5万、例会4回	90,197
連絡費	106,016	85,000	ポレ発送等(2.5万×3号)、その他広報DM1万	71,206
編集費	31,432	45,000	ポレ印刷費等(1.5万×3号)	32,464
会合費	22,997	25,000	運営委員会他(5回)	22,137
事務費	75,664	20,000	用紙、文具、コピー他(前年度実績[ナード除く]程度)	10,090
雑費	9,622	5,000	HP経費(前年度実績程度)	4,622
予備費	140,000	293,562		0
小 計	559,064	573,562		230,716
次年度繰越金	153,552	0		376,077
合 計	712,616	573,562		606,793
演奏部会基金			備 考	
前期繰越金	34,697	34,697		34,697
特別会計より繰入	0	37,070	記念演奏会(前年度)より入金2018.10.5	0
利息(北洋銀行)	0	0		0
合 計	34,697	71,767		34,697

2018年度 収支決算書(自2017年9月1日～至2018年8月31日) (単:円)

【収入の部】	予 算	決 算	備 考
会費	240,000	238,500	全額(3千円×90人)の88%
寄付金	60,000	98,037	
雑収入	30,010	2	貯金利子
小 計	330,010	336,539	
前期繰越金	376,077	376,077	ゆうちょ銀行
合 計	706,087	712,616	
【支出の部】			
事業費	230,000	173,333	30祝賀会15万、82例会コルチャック680、83例会ポエジア133、84例会名画鑑賞8千、85例会ピウスツキ1千、86例会マルタン1.3万
連絡費	70,000	106,016	郵送・はがき・切手・印字サービス
編集費	45,000	31,432	POLE92-94印刷
会合費	25,000	22,997	運営委員会5回
事務費	20,000	75,664	トナーカートリッジ4.7万、インクカートリッジ8千、用紙・封筒・メモリー・コピー
雑費	5,000	9,622	HP経費、花代(ピウスツキ百年忌)
予備費	311,087	140,000	助成金立替(20181001入金)
小 計	706,087	559,064	
次期繰越金	0	153,552	ゆうちょ銀行
合 計	706,087	712,616	
演奏部会基金	【収入の部】	【支出の部】	備 考
前期繰越金	34,697	0	
利息(北洋銀行)	0	0	
合 計	34,697	0	次年度へ繰越
<b>特別会計</b>			
<b>1. 雪像チーム</b>			
助成金	100,000	100,000	ポーランド大使館より(交通費・食費補助)
<b>2. コルチャック講演会</b>			
講演会経費		30,680	会場使用料1.2万、図書1.3万、車代5千他
一般会計より補助	680		
助成金	30,000		ポーランド広報文化センターより
<b>3. ポエジア8</b>			
ポエジア7経費		50,133	会場経費4.5万、ケーキ材料費3千円他
一般会計より補助	133		
助成金	50,000		ポーランド広報文化センターより
<b>4. 北大祭テント</b>			
助成金	80,000	80,000	ポーランド広報文化センターより(レンタル費用、テント登録費)
<b>5. 記念演奏会</b>			
演奏会経費		802,844	会場使用料36万、出演者交通費18万、ピアノ調律料6.6万他
演奏会基金へ繰入		37,070	次年度
チケット売上	714,914		
助成金・広告・寄付	75,000		道銀文化財団他より
助成金	50,000		ポーランド広報文化センターより
	839,914	839,914	
<b>6. ピウスツキ記念行事</b> (予備費で立替)			
記念行事経費		110,676	出張旅費5.2万、講師等謝礼3.8万、印刷費1万、DVD制作費1万他
一般会計より補助	676		
助成金	110,000		ポーランド広報文化センターより入金2018.10.1
<b>7. マルタン北大演奏会</b> (予備費で立替)			
助成金	30,000	30,000	演奏謝礼3万、ポーランド広報文化センターより入金2018.10.1

会計の監査にあたり、関係書類及び通帳を照合した結果、適正に処理されていることを確認しましたのでここに報告します。

2018年 11月 5日

監査委員

齋田道子

2018年 11月 5日

監査委員

野村信史



## 第4回 B・ピウスツキ国際会議(4IBPC, 2018.10.18-20)プログラム

### クラフ・日本美術技術博物館 Manggha⇒ジョリ市立博物館

10月17日 Manggha 館

6:00 pm, 特別企画展「アイス、グラレーそしてブロニスワフ・ピウスツキ」開会式 (A・クルール学芸員)

8:00 pm, 4IBPC の開幕を祝う歓迎レセプション

10月18日 10:00 am, 歓迎と開会の辞—B・デフチャルク=マイ Manggha 館長、A・F・マイエヴィチ・4IBPC 組織委員長

第1セッション「歴史と文化」△井上紘一:日本におけるアイヌ人骨返還問題の現況 △丸山博&L・シャルボノ:アイヌ家族の再統合へ向けての闘争 △P・ダレー(スイス):B・ピウスツキのヴィジュアル遺産の将来 △M・V・オンポヴァ(露):樺太アイヌのシャマン踊り [欠席]

第2セッション「博物館とコレクション」△V・ベリャエヴァ=サチュク&A・ソコロフ(露):ピョートル大帝記念人類学民族学博物館(クストカメラ)所蔵 B・ピウスツキ・コレクション △L・ブハリク(ポ):アイヌ伝統文化の変化の証人としての博物館コレクション △A・コザク(ポ):B・ピウスツキのザコパネ・コレクション △A・クルール(ポ):B・ピウスツキ特別展 2018 をめぐりいくつかの問題

4:00 pm, B・ピウスツキ顕彰板の除幕式 (トポロヴァ通り 18 番地にて)

7:00 pm, アマレシアアターによる「ノマディック・ウーマン」公演—会期中に上演されるカタジナ・パストウシヤク演出の舞踏劇「ノマディック・ウーマン」に日本から松平亜美と恵原詩乃が出演する。移住とエスニック・アイデンティティを主題とする同公演は、アイヌとイヌイト(アイヌ)の人たちによって演じられる。同シアターは 2017 年、札幌の国際先住民族芸術祭に招かれ、札幌市アイヌ文化交流センター(ピツカコタン)で公演し好評を博した。

10月19日 第3セッション「歴史と文化」△村崎恭子:B・ピウスツキからの大きな贈り物～蠟管記録から届いた声 △L・ミソノヴァ(露):Habent sua fata manuscripta(手稿はそれ自身の運命を有す) △A・M・ペヴノフ(露):オロッコ(ウイルト)語が被った未知の(諸)言語からの影響 △S・シュミット(スイス):錯綜する言説～B・ピウスツキの民族誌記述に見える文学的要素 △E・ダルコルソ(伊):樺太アイヌ語の助詞的範疇再考～ピウスツキ・コーパス由来のデータ

第4セッション「ブロニスワフ・ピウスツキ」△澤田和彦:ポーランドの文書館や図書館で発見された

B・ピウスツキ新資料 △T・ブルガコヴァ(露):ナーナイのシャマニズム語彙発見者としてのB・ピウスツキ △A・F・マイエヴィチ(ポ):ブロニスワフに寄り添って研究した 43 年～発端・飛躍・成果・展望(われらの記憶を更新する) △D・オニシュキエヴィチ(ポ):「プロネク」プロジェクト～デジタル時代の B・ピウスツキと彼の旅をめぐる新知見の探求 △安藤厚:北海道における近年のいくつかの B・ピウスツキ記念行事と長屋のり子による自作詩「盲いたチュフサンマの悲歌」朗読映像の上映(報告稿を井上紘一が代読) △HTB 制作番組「嘘塗りの骨～アイヌ人骨返還問題の悲痛～」の上映(丸山博&L・シャルボノ)

10月20日 ジョリ市立博物館

11:15～12:30 am, 歓迎の辞—A・ザビエグリンスキ・カトヴィツェ経済特区長官、L・ブハリク・ジョリ市立博物館長

第5セッション △A・ザビエグリンスキ&L・ブハリク:ビジネスと文化を結ぶ博物館 △K・ボディマ:ジョリ市立博物館におけるコレクション構築～独自の道 △L・ブハリク:世界を探検したポーランド人たち～博物館展示の基盤 △特別展「アイヌの世界～ブロニスワフ・ピウスツキから萱野茂まで」、ヴァルデマル・チェホフスキ監督の記録映画の紹介 △M・カリノフスカ=ブヤク:「ブロニスワフとユゼフ・ピウスツキ兄弟～ペンとライフルで独立を目指して」プロジェクトにかかわる博物館教育部門の活動 △L・ブハリク:ジョリ市立博物館におけるアイヌ・コレクション

12:30 am～1:00 pm, 特別展ギャラリーにてブハリク館長の案内で「アイヌの世界～ブロニスワフ・ピウスツキから萱野茂まで」展を巡覧

1:00～2:30 pm, 常設展示「われらのアイデンティティ」「世界を探検したポーランド人たち」、博物館の周囲に建立されたシュテファン・ツヴァイク、ヴァツワフ・シェロシェフスキ、ブロニスワフ・ピウスツキの顕彰碑を巡覧 (井上紘一編訳)

# POLE

第96号 別冊1 2019.1.31  
北海道ポーランド文化協会 会誌